

到達目標（コンピテンシー）

1. プロフェッショナリズム		
医師・医学研究者を目指す者として、それにふさわしい倫理観や価値観をもった行動ができる。		
1)	倫理	① 医の倫理と生命倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、議論できる。
2)	習慣・服装・品位/礼儀	① 医師として状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。
		② 時間を厳守し自ら目標を設定し、目標到達のために自らの計画に沿って行動できる。
		③ 省察の内容を言語化し、その後の活動に活かすことができる。
3)	倫理と法	① 個人情報の取扱いに注意し、患者情報の守秘義務を守り、患者のプライバシーを尊重できる。
		② 各種法令、制度を遵守し、医師の法的責任を踏まえて医療に参加できる。
		③ 利益相反について説明できる。
		④ 著作権、医療における情報倫理を理解し、遵守することができる。
2. 生涯教育		
医師・医学研究者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、医学・医療及び関連の広い分野の科学情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。		
1)	科学的情報の収集・評価・管理	① 情報を、目的に合わせて効率的に入手し、科学的に評価することができる。
		② 入手した情報を統計学的手法を適用して評価し、適切な方法で使用し、論文作成・研究実施の基礎となる症例提示やレポート作成ができる。

2)	国際人としての基礎	①	英語で書かれた最新の医学情報を収集し、読解することができる。
3)	自己啓発と自己鍛錬	①	医学・医療の発展、人類の福祉及び患者の幸福に貢献することの重要性を理解できる。
		②	自身の目標に合わせて現状を省察し、自ら必要な学習ができる。
3. コミュニケーション			
患者やその家族と、また医療従事者との間で、他者を理解し、互いの立場を尊重した関係を構築し、医師としてふさわしいコミュニケーションをとることができる。			
1)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、その人格、貢献、時間を尊重し、常に敬意を払って接することができる。
2)	患者や家族に対するコミュニケーション	①	社会的困難を抱える事例を含む患者や患者家族の社会的背景を尊重し、理解に努め、解決策や予防策を立てる議論に加わることができる。
3)	医療チームでのコミュニケーション	①	チーム医療におけるリーダーシップの意義を理解し、他の専門職に対して、尊敬、共感、責任能力、信頼性、誠実さを示しながら、チームメンバーとして議論に参加できる。
4. 知識とその応用			
総合科学、生命科学、社会医学、臨床医学の知識を修得して、科学的根拠に基づき、診療や研究の実践に応用ができる。			
1)	医療を実行するための知識	①	医学および医療に応用できる知識を身につけ、問題解決に応用できる。

5. 診療の実践

**患者の意思を尊重しつつ、思いやりと敬意をもった態度で、
適切で効果的な診療を実施できる。**

1)	病歴収集	①	患者の疾患を推察しながら、病歴を適切に収集できる。
2)	身体診察	①	鑑別診断を念頭に、身体診察を適切に実施できる。
3)	検査の選 択・結果 解釈	①	頻度の高い疾患に必要な検査の選択、および結果の解釈、 画像の読影ができる。
4)	臨床推論・ 鑑別	①	得られた病歴・検査結果を総合し、系統立てて疾患を推論で きる。
5)	診断と治療 法の選択	①	適切な治療法の選択、治療計画が立案できる。
6)	診療録作成	①	臨床推論の過程を反映させた診療録が作成できる。
7)	療養計画	①	患者の療養計画及び疾患管理・予防計画の立案ができる。
		②	診断・治療法選択の流れを簡潔にまとめ、医療者間に提示す ることができる。
		③	診療の引き継ぎ(ローテーション終了時、転科、転院等)に際 して、引き継ぐ診療チーム・診療提供者に、臨床情報を包括 的、効果的かつ正確に提供することができる。
8)	患者への 説明	①	指導者のもと、患者への病状説明や患者教育に参加するこ とができる。
		②	インフォームド・コンセントの意義を理解し、取得手順を 説明できる。
9)	基本的臨床 手技の実施	①	コアカリキュラムの学習項目としてあげられた基本的臨床 手技を適切に実施できる。
10)	根拠に基 づいた医 療(EBM)と 安全な医療	①	医療安全や感染対策(標準的予防策: standard precaution) が説明できる。
		②	ガイドラインや論文から関連情報を収集し、科学的根拠に 基づいた安全な医療を説明できる。

6. 医療と社会・地域（福島をモデルとした地域理解）

A 医学、医療、保健、福祉に関する法律と社会制度、保健・医療・福祉の資源を活用し、住民健康・患者診療に貢献する準備ができています。

B 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明ができる。

1)	医療と地域	①	保健福祉制度や、社会資源（保健所、保健福祉センター、行政の相談窓口など）を踏まえて、患者の退院後の生活支援の話し合いに参加することができる。
		②	地域住民の生活環境・慣習を踏まえて、他の医療職と共に診療に当たることができる（全人的医療）。
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島での大規模複合災害の経験を基に、放射線災害時の医療者の役割を、医療・福祉・保健・科学技術・行政社会との連携の観点から説明できる。

7. 医学/科学の発展への貢献

総合科学、生命科学、社会科学、臨床医学領域での研究の意義を理解し、科学的情報を評価し、新しい知見を生み出すために論理的・批判的な思考ができる。

1)	科学的思考と研究	①	医学研究およびエビデンスに基づいた医学・医療の重要性を理解した上で診療に臨み、疑問点を挙げるすることができる。
2)	福島から世界へ	①	福島の特徴から生じる医療上の問題点を、科学的・論理的に考察し、世界的視野から俯瞰できる。